

## 平成28年度 関西女子短期大学 入学式 学長式辞（全文）

新入生の皆さん、関西女子短期大学へようこそご入学下さいました。歓迎いたします。また本日、ここにご入学の良き日をお迎えになられたことを、心からお祝い申し上げます。ご家族の皆様におかれましても、これまで育てられた18年間の毎日を思い出されますと、その喜びは言葉では表せないほどに大きく、すばらしいものと拝察いたします。誠にありがとうございます。また、ご来賓の皆様におかれましては、年度始めのお忙しい時期に、本日のこの式典にご臨席賜りまして、ありがとうございます。心からお礼を申し上げます。



万葉集に『いわばしる 垂水の上の 早蕨の もえ出づる春に なりにけるかも』という志貴皇子の歌があります。私が大学に入って最初に受けた講義が日本文学の万葉集で、その時の講義内容がこの志貴皇子の歌でした。講師は万葉集研究で有名な犬養 孝 先生で、犬養節という独特の節回しで、朗々と歌われていました。私は春という心はずむ季節がやってきたという、喜びに満ちた春の歌と理解していたのですが、犬養先生の説明では、この歌は単に春という季節がやって来たというだけでなく、気持ちの上で待ちに待った春がやって来たという意味もあるようで、皆さんの今の気持ちにふさわしい歌ではないかと思えます。『いわばしる 垂水の上の 早蕨の もえ出づる春に なりにけるかも』です。

今日、皆さんは、『建学の精神〔感恩〕を体し、専心、勉学、修養に努める』と誓われました。この建学の精神『感恩』とは、関西女子短期大学の運営母体である玉手山学園が創設された時に、本学が学生を教育してどのような人に育てるのかという教育の基本理念を表した言葉です。『感恩』と聞くと難しい言葉と思われるかもしれませんが、『感恩』の「感」は感謝の「感」、『感恩』の「恩」は「恩恵を受ける」の「恩」です。常に感謝の気持ちをもって、笑顔で「ありがとうございます」という言葉が自然と出る学生になっていただきたいと思っています。

関西女子短期大学は今年、創立52年目を迎えます。1965年に保育科と家政科の2学科からなる玉手山女子短期大学という名で産声をあげ、その翌年に関西女子短期大学に改称されました。以降、関女の愛称で親しまれていますが、保健科などの学科やコースを新設、あるいは統廃合しながら発展し、現在は保育学科、養護保健学科、歯科衛生学科、医療秘書学科の4学科で運営されています。保育学科では保育士や幼稚園教諭、養護保健学科では養護教諭や中学校教諭、歯科衛生学科では歯科衛生士、医療秘書学科では医療秘書士や秘書士という専門職員を養成することをその教育目的にしています。皆さんは、本学において専門職に必要な知識と技術だけでなく、それをさらに発展させる判断力や表現力を身に付けたいと考えておられると思います。本学では、専門職に必要な知識と技術の基本を2年間あるいは

3年間をかけて教育し指導いたします。この基本をマスターすれば専門職の資格を得ることができます。しかし専門職の資格があれば専門職の仕事が満足にできるものではありません。専門職の対象となる人はすべて同じではありません。対象それぞれに応じて適切に対処するのが専門職員です。どのような対象に対しても、最高の対応ができるようになるには、多くの経験ときまじまな試行錯誤が必要となります。

本学では、専門職に必要な基本となる専門科目だけでなく、一般教養ともなる共通教育科目を用意しています。専門職になるのに一般教養は関係ないと思われるかもしれませんが、この一般教養が人としての幅を拓き、それが専門職としての奥行きに深みを与えるのです。自分の職業とは異なる分野で得られた知識や経験が、貴女たちの人としての魅力を大きく伸ばしていくのです。自分の専門分野とは異なる領域の知識や経験を積んでいただきたいと思います。

さらに皆さんに知っていただきたいのですが、若いうちに美しいものや素晴らしいことを体験して、感動して下さい。若い頃の感動は一生心に残り、貴女方のこれからの活動の原点になります。若い頃に多くの新しいことを経験し、感動していただきたいと思います。

今日から皆さんは短期大学生としての生活を始めることになりますが、これまでの高校生とは全く違う学生生活を送ることになることを知っておいて下さい。昨年から18歳になると選挙権が与えられることになりましたが、法律的には20歳まではまだ未成年となっています。しかし大学生になりますと、社会では貴女方を成人として対応されると思います。大人として対応されることは貴女方にとってはうれしいことかもしれませんが、大人には大きな義務と責任の伴うことを知っておいて下さい。これまで、貴女方のされたことはすべて親のしつけとか教育のせいとかにされてきました。しかしこれからは、貴女方が行なうすべてのことが貴女方自身の責任になり、それがすべて貴女たちの人としての評価の対象になります。周りの大人たちは、あなた方の日頃の行動や言動を聞いて、貴女方がどのような人間であるのかを常に評価していることを知っておいて下さい。


あなた方の生まれる前の話になりますが、今から22年前に阪神淡路大震災がありました。当時、私は尼崎市に住んでいましたが、震源地からはかなり離れた尼崎に住んでいた私でも、最初は地震というよりも、アパートに飛行機が突っ込んだと思いました。すごい衝撃でした。その後、大きな揺れが続いて、初めて地震と気付きました。部屋は滅茶苦茶でしたが、家族は全員無事で、1週間後から、大学病院に働きに行くことができるようになりました。その時の大学の病院長が、私の前任の学長である祖父江鎮雄先生で、神戸市灘区の避難所に歯科治療をする場所を確保し、避難者の歯科治療をする救護班の班長を命じられました。避難所に治療する場所は確保できたのですが、誰も来ません。知らないのだろうということで、宣伝に出かけたのですが、私達のようなおっさんがいくら話をしても誰も聞いてくれませんでした。ところが、避難所の診療所の留守役の若い歯科衛生士が声をかけると、みんなが振り返り、その話を聞いて、診療室に来るようになりました。驚きました。あの時ほど、若い女性の笑顔の素晴らしさを感じたことはありません。貴女たちは、自分では気付いていないと思いますが、貴女達の笑

顔ほど、人の心を和ませるものはありません。校内ですれ違ったときに、笑顔で「おはようございます」とでも挨拶されると、ほとんどの教員がスキップをしたくなるほど喜んでいることを覚えておいて下さい。笑顔で挨拶をすることを忘れないで下さい。

最後にお願いがあります。専門職になると、職業に関連する多くの困難や障害に遭遇します。その時に、同じ職業に就いている親しい同級生の存在は、非常に頼りになります。仕事の悩みを打ち明けるだけでその悩みが解消することもありますし、解決策を suggest してくれることもあります。本学で学ぶ2年間あるいは3年間の間に、同級生のベストフレンドを作っていただきたいと思います。

新入生の皆さん、今日から貴女たちは関西女子短期大学の学生です。これからの2年間あるいは3年間で有意義に過ごされ、卒業式の日、この大学で学んでよかったと満足できる毎日を過ごされることを祈念して、私の式辞とさせていただきます。ご入学、おめでとうございます。

平成29年4月1日

 関西女子短期大学 学長 大嶋 隆

